

中国 欧米からの文明吸収の歴史

日本人は古代から続く日本の文明に外国(中国、欧米)から貪欲に吸収した文明を加味し日本独特の文明を構築してきた。

東京を見ると、古代から続く日本の文明の上に、中国文明、欧米文明を吸収し、日本独特の文明を構築してきた日本の首都の姿がわかる。
東京は伝統的なものと近代、現在の革新的なものが混在している都市です。

奈良時代から鎌倉時代までは中国北部の黄河文明、南部の五山文明を時代を追って吸収。室町時代(京都)には中国の黄河文明と五山文明の双方に学び、日本風にアレンジしていった。1200年守られてきた京都(794年、平安京として作られ、1994年に世界遺産に指定)の街には、それら独自の文明が残っている。日本人は京都に真の日本を見出している。

江戸時代に入ると、中国文明をマスターし日本固有の自立した独自の文化を切り開いていった。世界史から見ても珍しい260年以上内乱、鎖国の下、戦争のない平和な時代が続いた。庶民中心の文化が花開き、かつての輸入品の大半は国産化した。

明治維新後は、文明開化。欧米に追いつけ追い越せ！の国家方針のもと東京を中心に欧米文明の吸収に専念。明治から第二次世界大戦までは軍国主義、1945年の敗戦以降は平和主義で世界経済に貢献。次第に日本独特の文明(欧米文明を吸収した日本文明)を構築している。

